

様式 1

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	楠 蔵人
論文担当者	主査 長谷川 誠紀
	副査 廣田 誠一
	副査 木島 貴志
学位論文名	The advanced lung cancer inflammation index predicts outcomes in patients with Crohn's disease after surgical resection (クローン病における術前 Advanced lung cancer inflammation index の臨床的意義)
論文審査の結果の要旨	
<p>申請者等はクローン病 (CD)における手術再発に対するpredictive markerとして、栄養学的指標の有用性を検討した。</p> <p>【研究目的】 CDは初回手術後の再手術率は高率であることが知られている。今回、CDにおける手術再発に対するpredictive markerとして、栄養学的指標の有用性を検討した。</p> <p>【研究材料と方法】 2006年2月から2015年12月までに三重大学付属病院でCDに対して腸管切除を伴う手術を施行し5年以上follow upした100例を対象に、術前の栄養学的指標と再手術の相関を解析した。再手術の定義として、内科的治療抵抗性による再狭窄や瘻孔形成に対し外科的な介入を行った症例を再手術施行群とし解析を行った。代表的な栄養学的指標である8つの指標を用いて ROC解析で比較し、最も累積再手術予測能が高い指標を選択した。</p> <p>【研究結果】 Discovery cohortである三重大学付属病院でCDに対し腸管切除手術を行った患者の手術再発率と術前の栄養学的指標のROC解析ではALIが最もArea under the curve が高値であった。多変量解析においてALI低値群は手術再発率に関する独立した予後不良因子であった。同一cut-off値 を用いてExternal independent cohortである兵庫医科大学病院でのCDに対する腸管切除症例でも検討すると、同様の結果を確認できた。</p> <p>【結論】 CD において術前 AU score の測定は手術的再発ハイリスク群同定の有用な predictive marker であり、術後寛解維持療法選択の一助となる可能性が示唆された。</p> <p>本研究は、CD 術後の再手術に関して ALI が良好な予測能を持つとの重要な知見を得ており、学位に値すると判断した。</p>	